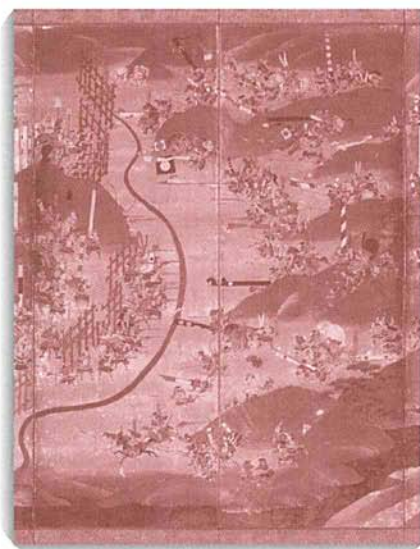


歴史書

1

2015
No. 217



通 信

戦国合戦研究の黎明／平山 優
歴史書新刊ニュース〈11・12月〉
歴史書以外の人文社会図書新刊案内〈11・12月〉
会員社刊行の2014年受賞図書
2014年歴史書懇話会研修旅行記

歴史書懇話会

戦国合戦研究の黎明

平山 優

(山梨県立中央高等学校教諭)

近年、戦国の軍隊や合戦に関する研究が熱を帯びてきている。このように書くと、意外に思われるかも知れないが、既往の戦国期研究は、戦乱の時代を分析対象にしているにもかかわらず、戦国大名や国衆の保持する軍勢や、合戦の実態究明などは、最近までほとんど行われてこなかった。では、これまでの研究状況はどうだったろうか。その軸となったのは、兵卒を如何に動員したかという、徴兵の問題である。まず戦国大名が譜代家臣や外様国衆に対し、軍役定書や軍役着到状を発給して、軍役人数と武装内容の指示を行っていたことを受けて、所領貫高と動員の対応関係などの分析が行われてきた。これは、近世史における軍役論の影響を多分に受けていたといえる。次に研究が集中したのは、大名が村々から在村被官（軍役衆）を動員する方法や、彼らそのものの実態分析である。この動員方法の研究を通じて、戦国大名は村々に賦課した公事（諸役）の免除を行うか、検地を実施する過程で、本年貢以外の内徳、得金を知行として与え、その代替として村からの軍事動員を実現したことなどが明らかにされた。また動員に応えたのは、当初は土豪（小領主とも）、

有力百姓らであり、後に中小百姓も動員されるようになったと指摘された。これらの研究は、戦国大名がそれまでの守護とは違い、在地支配を強化しつつ、軍勢力編成を成し遂げたことを明確にしたが、それは動員する権力と、動員される民衆という、どちらかといえば対立の構図という視点からなされてきた。このような研究視角は、「自力の村」論や大名権力と地域社会との関係に関する諸研究により、大きく修正されつつあるといえる。

しかしながら、戦国期の軍事研究はここではほぼ停滞し、では大名は動員した兵卒を、どのように軍勢として編制していたか、また合戦とはどのように行われていたかなど、最も基本的な問題は等閑視されたままであった。それは、長篠合戦、関ヶ原合戦など著名な合戦であっても、その戦闘経過についてはもちろん、発生までの政治史の動きすら緻密に検討されてきたわけではなかった。このように戦国の軍隊や合戦研究が低調であった理由は、戦後歴史学の思想状況とも密接に関連すると思われるが、課題そのものに関心が向かなかったことが大きいだろう。

その後、動員された兵卒がどのよ

うに備（頭、首とも）として編制され、合戦に投入されたかという問題が検討されるようになったのは2000年代に入ってからである。なかでも、黒田基樹・則竹雄一氏による、戦国大名の軍隊構成の分析は画期的な成果であった（前者は、小林一岳・則竹雄一編『ものからみる日本史』戦争Ⅰ・中世戦争論の現在』青木書店・2004年、後者は木村茂光編『日本中世の権力と地域社会』吉川弘文館、2007年にそれぞれ収録されている）。ここで明らかにされたのは、戦国大名は家臣や村落より動員した兵卒を、騎馬、弓、鉄炮、鎧などの武装ごとに編制しなおすという、兵種別編制を行っていたという事実である。戦国大名の軍勢の構造が明らかにされたことにより、常に革新性のみが取りざたされる、織田信長と彼の軍勢の実像に疑問の眼が向けられるようになった。少なくとも私は、武田・北条・上杉氏の軍隊と、信長の軍隊には、構造上の相違はまったくなかったと考えている。その点は、拙著『長篠合戦と武田勝頼』『検証長篠合戦』（吉川弘文館、2014年）で指摘したとおりである。

次に合戦の実態、すなわち戦闘の経緯などについてはどうだろうか。実をいえば、ほとんどの戦国合戦では、戦闘に参加した当事者たちの手になる古文書、記録がきわめて乏しく、その再現が困難なのだ。そのため、合戦を知ろうとすれば、結局軍記物に頼らざるをえなくなる。そのことが、研究の進展を阻害してきた事情だろう。ただし、軍記物のうち、

戦国終焉後、その生き残りたちが手がけた『甫庵信長記』、『太閤記』、『甲陽軍鑑』などは近年その再評価が進んできている。もちろん、記述内容の検証は不可欠だが、全否定することは出来なくなったことだけは強調しておきたい。

このような厳しい史料環境にあつて、近時注目を集め始めているのが、近世初期に作成された「戦功書上」「戦功覚書」である。これは、合戦終了直後から数ヶ月後にかけて、合戦に参戦した兵卒たちが残した記録であり、通常は主君からの恩賞に備えて、戦闘現場における自分の活躍を、証人の名前とともに記述したものである。これらの史料は、軍記物のように、広範囲に及ぶ戦闘の推移や詳細な戦局に関する情報を得ることは出来ないことが多いものの、記録者がどのような戦闘に巻き込まれ、同輩らと如何に連携して戦ったか（戦闘の実像）を知るうえでは貴重な証言といえる。さらに、内容については、恩賞授与の厳しい審査を想定し、具体的な行動に関しては、常に証人が立てられていることから、信頼性が高いと考えられる。

また、近世初期には、戦国合戦を生き残った者が、自身の戦歴を備忘と子孫へ伝えることなどを目的に、「覚書」を書き残した場合も少なくない。大久保忠教『三河物語』も、この範疇に属するのだろうが、一般の武士たちの記録は自分とごく限られた周囲の人々との協調のもと、敵とわたりあった具体性において、それを上回るリアルさがある。これらの「覚

書」も、牢人の場合には将来の仕官に備えて記述したものや、回想録としての性格をもつものなど様々である。しかし、主家が滅亡してしまった武士の場合、その影響もあってか、自身の戦功を証言してくれる証人が、遠くに生活の拠点を移していることなども明記され、記録が成立した近世初期という時代状況をよく表しているともいえる。ただ、興味深いのは、記録者にとって重要な証人（もと同輩）の行方を、彼らがよく把握していることであり、戦友間の情報ネットワークが存在していたことが窺われる。なお余談だが、『信長公記』の作者太田牛一も、故郷尾張国の同輩と老境に至っても書状の遣り取りをしていたことが知られ、彼の著作の情報源の一つが、織田遺臣間の情報ネットワークだったことが指摘されている（金子拓『織田信長という歴史』『信長記』の彼方へ』勉誠出版、2009年）。

こうした「戦功書上」を読むと、個々の戦闘がどのような手順で行われるか、鉄炮、弓、長柄、騎馬の戦闘方法などが浮かび上がってくる。そして、当時の兵卒たちの戦いぶりを追っていくと、前記の『甲陽軍鑑』や『甫庵信長記』などに記されている戦闘の様子が、決して虚偽を書き連ねているわけではないことがわかってくる。このように、「戦功書上」を精査する作業を重ねつつ、近世初期までに成立した軍記物とをつき合わせることで、戦国合戦の内実がより具体的に明らかになってくること

だろう。

また、「戦功書上」には、個々の戦闘状況を知ることができる情報のほかに、古文書や記録に残らなかった戦国合戦が記述されている場合も少なくない。たとえば、上杉景勝の家臣であった北信濃屋代秀正（屋代、荒砥城〈千曲市〉主）は、天正12年（1584）4月1日、徳川家康の調略に応じ、一族を率いて出奔した。その時、彼らが徳川領のどこに移ったのかは明らかでなかったが、彼自身が書き残した「屋代秀正覚書」に、信濃国虚空蔵山城（上田市）に入り、上杉軍と交戦したことが明記されている。この戦闘も文書では判明しない事実である。このように、戦国合戦研究は、いま新たな段階に入ろうとしており、これまでの通説が書き換えられていくことも、珍しいことではなくなるだろう。

もちろん一次史料の博搜と既知の史料の読み直しから、合戦の実像が明らかになる可能性も十分ある。その成果として、関ヶ原合戦の幾多の通説が誤りであることを明らかにした、白峰句氏の近著『新解釈 関ヶ原合戦の真実 脚色された天下分け目の戦い』（宮帯出版社、2014年）は、今後の合戦研究の指針となる成果であろう。今こそ、あらゆる先入観を排した実証研究が望まれているといえよう。

（表紙写真）「長篠合戦図屏風」
（部分、犬山城白帝文庫所蔵）

新刊ニュース

11・12月発行図書 *発売は予定のものもあります

考古学

概論・通史/日本/アジア/ヨーロッパ/アフリカ/アメリカ/その他

出雲の考古学

川原和人著

B 5 判 272頁 8,500円

同成社[12月刊]

鳥根県の文化財行政を牽引してきた著者の多年に亘る研究の集大成。出雲の古墳・遺物を通時的に分析し、その繁栄を多角的に検討する。 978-4-88621-677-9

江戸の開府と土木技術

江戸遺跡研究会編

A 5 判 282頁 6,500円

吉川弘文館[11月刊]

徳川家康が入国したころの江戸は、どのような姿をしていたのか。いまだ不明な点が多いその様相を、地形環境や遺構群を素材に描く。 978-4-642-03466-1

古代都城の造営と都市計画

近江俊秀著

A 5 判 272頁 9,000円

吉川弘文館[12月刊]

平城京遷都にあたり、どんな都市計画が行なわれたのか。地形になかった基幹水路網を復元。宅地班給を分析し、その居住者を比定する。 978-4-642-09341-5

日本考古学百景

戦前の絵葉書にみる遺跡と遺物

平田 健編

A 4 判 328頁 9,500円

吉川弘文館[12月刊]

北海道から九州に及ぶ、約1500点の貴重な考古学絵葉書コレクション。忘れられていた遺物や遺跡の姿が鮮やかに甦る。 978-4-642-09340-8

日本史

概論・通史/史料/古代/中世/近世/近代/現代/地方史

列島中央の軍事拠点

中部 地域のなかの軍隊 3

河西英通編

四六判 240頁 2,800円

吉川弘文館[11月刊]

浜松・名古屋・高田・金沢・甲府・長野…。自然環境が大きく異なることで、多様な軍事施設の配置が特徴である中部地方の実態に迫る。 978-4-642-06475-0

大陸・南方膨張の拠点

九州・沖縄 地域のなかの軍隊 6

林 博史編

四六判 252頁 2,800円

吉川弘文館[12月刊]

小倉・熊本・佐世保・知覧・久留米・長崎・沖繩…。膨張続ける近代日本。軍隊はそこに何を残したのか。戦後沖繩と米軍基地にも言及。 978-4-642-06478-1

戦国遺文 三好氏編 第2巻

天野忠幸編

A 5 判 312頁 17,000円

東京堂出版[11月刊]

畿内の戦国政治史理解に欠かせない、三好氏関連文書を編年順に網羅。本巻には元禄5年～元龟元年を収録。全3巻。 978-4-490-30710-8

鎌倉遺文 補遺編 東寺文書 第3巻

鎌倉遺文研究会編

A 5 判 320頁 予価15,000円

東京堂出版[12月刊]

「東寺百合文書」「東寺文書」より『鎌倉遺文』古文書編・補遺編全46巻に収録されなかった文書約100通を収録。本巻には元応～元弘(正慶)までの約200通を収録。 978-4-490-30680-4

日本書紀研究 第30冊

第三十冊記念号

日本書紀研究会編

A 5判 384頁 11,000円

塙書房〔11月刊〕

現存史籍最古の『日本書紀』を、考古学・民俗学・文化人類学等、学的な関心により多側面から検討した各論文を収載。第三十冊記念号。 978-4-8273-1530-1

契約と紛争の比較史料学

中近世における社会秩序と文書

白井佐知子、フセイ・ジャン・エルキン、岡崎 敦、金 炫榮、渡辺浩一編

A 5判 380頁 12,000円

吉川弘文館〔11月刊〕

モノを介した人と人との関係が社会のなかで認知される仕組みを、文書実践の諸側面から比較・検討。新地平を切り開く、論考20編。 978-4-642-02922-3

石垣整備のてびき

文化庁文化財部記念物課監修

B 5判 232頁 5,000円

同成社〔12月刊〕

城跡等の石垣修理・復元、整備事業を進めるにあたって必要な石垣の本質的価値を示し、その修理方法と実務を総合的にまとめた初の手引書。 978-4-88621-686-1

偽りの日本古代史

井上 巨著

四六判 176頁 1,800円

同成社〔12月刊〕

聖徳太子不在論や大化改新否定説、「日本」国号成立の謎や、日本書紀編纂をめぐる激しい論争を通して、古代史の争点に全て決着をつける。 978-4-88621-683-0

古代の霧の中から

出雲王朝から九州王朝へ

古田武彦著

四六判 336頁 3,200円 ミネルヴァ書房〔9月刊〕

出雲と九州にそれぞれ独自の王朝がかつて存在したことの解明を軸として、出雲神話、好太王碑論争や謎の筑紫舞といった様々な課題を明らかにする。 978-4-623-06669-8

古代の女性官僚

女官の出世・結婚・引退 歴史文化ライブラリー390

伊集院葉子著

四六判 256頁 1,800円

吉川弘文館〔11月刊〕

女性官僚の出世のルートや日常業務、結婚や引退、死に至るまでのライフコースを辿り、天皇の政務と日常生活を支えた生き方を描く。 978-4-642-05790-5

国東六郷山の信仰と地域社会

中世史選書17

飯沼賢司著

A 5判 296頁 予価7,000円

同成社〔12月刊〕

大分県国東半島の六郷山地域。独特の山岳仏教文化の成立と展開の史的過程を解明し、山の開発と支配の有り様及び信仰を、丹念に検証する。 978-4-88621-680-9

蒙古襲来

服部英雄著

四六判 520+口絵16頁 2,400円 山川出版社〔12月刊〕

毎日出版文化賞を受賞した服部英雄氏の新作。史料を徹底的に読み直し、従来の解釈の誤りを正すことで、蒙古襲来の実像をさぐる。 978-4-634-15061-4

中世寺院社会と民衆

衆徒と馬借・神人・河原者

下坂 守著

A 5判 430頁 7,500円

思文閣出版〔12月刊〕

中世比叡山延暦寺が果たした歴史的役割を、同寺の活動実態とその支配下にあった京・近江の民衆との関係を中心に考察。中世寺院社会に光を当てる一書。 978-4-7842-1779-3

毛利元就

武威天下無双、下民憐愍の文徳は未だ

岸田裕之著

四六判 472頁 3,800円 ミネルヴァ書房〔11月刊〕

安芸の小領主から一代にして中国地方を一手におさめる大名となった毛利元就。激動の世で元就はいかに領地を拡大し、広大な領域を掌握するに至ったのか。「法制」、「経済」、「意識」の側面からその勇躍の秘密に迫る。 978-4-623-07224-8

享徳の乱と太田道灌

敗者の日本史 8

山田邦明著

四六判 254頁 2,600円

吉川弘文館〔12月刊〕

上杉氏の重臣太田道灌の活躍で乱は鎮静に向かうが、彼が謀殺されたのち上杉氏も分裂。内乱状況が続いた関東の戦国前夜の争乱を描く。 978-4-642-06454-5

中世の唐物と伝来技術

関 周一著

A 5判 266頁 9,000円 吉川弘文館〔12月刊〕

中世の支配者層に強く求められた唐物。商人の役割、外交使節の実像、輸入から消費までを考察。境界を超えた生産技術の伝来を検討。

978-4-642-02923-0

太平記の世界

列島の内乱史 読みなおす日本史

佐藤和彦著

四六判 256頁 2,200円 吉川弘文館〔12月刊〕

天皇・貴族・武士から庶民まで、すべてが動乱に巻き込まれた南北朝時代。後醍醐天皇・足利尊氏・楠木正成ら、人物像から読み説く。

978-4-642-06584-9

近世近代移行期の政治文化

歴史科学叢書

椿田有希子著

A 5判 362頁 9,000円 校倉書房〔12月刊〕

内憂外患の時代状況下で幕府が行った「公儀立て直し努力」のゆくえを、最高権力者たる將軍と、被治者すなわち民衆との関係性に主眼を置いて解明する。 978-4-7517-4580-9

三くだり半と縁切寺

江戸の離婚を読みなおす 読みなおす日本史

高木 侃著

四六判 264頁 2,400円 吉川弘文館〔11月刊〕

女性の立場の弱さを示すといわれた離縁状三くだり半は、実際には女性も要求できた。縁切寺の実像と併せ、近世女性の地位を問い直す。 978-4-642-06583-2

武士の奉公 本音と建前

江戸時代の出世と処世術 歴史文化ライブラリー-393

高野信治著

四六判 240頁 1,700円 吉川弘文館〔12月刊〕

役人として生きねばならなかった江戸時代の武士。上司に取り入り人間関係に配慮し、したたかに生きようとした「働く思い」を検証。

978-4-642-05793-6

近代日本の陸軍と国民統制

一山縣有朋の人脉と宇垣一成 歴史科学叢書

伊勢弘志著

A 5判 413頁 10,000円 校倉書房〔11月刊〕

近代日本において国家がどのようにして国民の統制を試みたのかを問題に、陸軍を軸に形成された人脉によって展開されていた政策の成否などを論じた。 978-4-7517-4570-0

幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

大村益次郎とその継承者

竹本知行著

A 5判 340頁 6,300円 思文閣出版〔11月刊〕

日本の近代国家形成と国民形成の推進に多大な役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎と山田顕義らの動向にたどり、その政治史上の特性を探る。 978-4-7842-1770-0

レンズが撮らえた外国人カメラマンの見た幕末日本Ⅱ

小沢健志監修

B 5判 160頁 1,800円 山川出版社〔11月刊〕

幕末から明治にかけて多くの外国人写真師が長崎を訪問し、多くの日本人写真師を育成した。彼らの足跡を当時の写真とともにたどる。

978-4-634-15066-9

内大臣の研究

明治憲法体制と常侍輔弼

松田好史著

A 5判 228頁 9,000円 吉川弘文館〔11月刊〕

平田東助・木戸幸一ら歴代内大臣の時代を辿りつつ、「常侍輔弼」のあり方とその運用を検討。国家意思の形成と宮中の役割を追究する。

978-4-642-03839-3

金森徳次郎の憲法思想の史的研究

霜村光寿著

A 5判 288頁 6,000円 同成社〔12月刊〕

日本国憲法の産みの親といわれる金森の著作を歴史学的視点から分析し、敗戦の中、いかなる思想から現憲法が形作られたのかを考察する。 978-4-88621-684-7

日本海軍史の研究

海軍史研究会編

A 5判 356頁 9,000円 吉川弘文館〔11月刊〕

建軍以来の歴史の中で、組織や人材、戦略の立案、兵器・燃料の拡充など、軍事の中核はいかに養われたのか、その実態を究明する。

978-4-642-03840-9

新刊ニュース (日本史・世界史)

池上彰の現代史授業 21世紀を生きる若い人たちへ
昭和編③昭和四十年代 高度成長にわく
池上 彰監修・著
A B判 48頁 1,600円 ミネルヴァ書房〔11月刊〕

高度成長まっただなかの日本では、公害問題、大学紛争、沖縄復帰などを経てその時代の終わりへと至る。一方、世界では冷戦下でのベトナム戦争や宇宙開発競争などが激化する。そんな昭和四十年代を池上彰先生がわかりやすく解説。 978-4-623-07165-4

池上彰の現代史授業 21世紀を生きる若い人たちへ
昭和編④昭和五十・六十年代 ゆらぐ成長神話
池上 彰監修・著
A B判 48頁 1,600円 ミネルヴァ書房〔12月刊〕

昭和五十年代、ロッキード事件で政界が動揺、カンボジアやアフガニスタンが東西冷戦に巻き込まれる一方、五十五年の選挙では自民党の一党支配が確立。六十年代にはバブルにわくなか天皇が死去し激動の昭和が終る。そんな時代を池上彰が解説。 978-4-623-07166-1

自衛隊史論

政・官・軍・民の六〇年
佐道明広著
A 5判 240頁 3,000円 吉川弘文館〔12月刊〕

激変する国際社会に日本の防衛政策はどのように対応し、自衛隊はいかに変貌を遂げてきたのか。創設60年の歴史を辿り、役割を問う。 978-4-642-03841-6

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

司馬遼太郎が本当に伝えたかった世界の歴史

川原崎剛雄著
四六判 224頁 2,200円 明石書店〔11月刊〕

司馬遼太郎が『街道をゆく』で訪れた世界各地を「世界史」の視点から追体験することにより、司馬が本当に伝えたかったメッセージを探っていく。人間と自然の関わりを中心に据えながらこれからの「人間の在りよう」を考察する。 978-4-7503-4106-4

タロットの歴史～西洋文化史から図像を読み解く～

井上教子著
A 5判 304頁 2,500円 山川出版社〔11月刊〕

謎に満ちたタロットの絵柄を、西洋絵画のアトリビュートに基づいて読み解く。古典系からウエイト系まで、大小アルカナについてカラーで紹介。 978-4-634-15062-1

清代中国における演劇と社会

山川歴史モノグラフ28
村上正和著
A 5判 256頁 5,000円 山川出版社〔11月刊〕

檔案（公文書）史料を利用することで、政治や社会といった領域からのアプローチを試み、演劇文化が形作られていく様相を描き出す。 978-4-634-67385-4

カザフスタンを知るための60章

宇山智彦・藤本透子編著
四六判 360頁 2,000円 明石書店〔11月刊〕

ソ連崩壊後の混乱から、地下資源などで再興し、発展著しい中央アジアのカザフスタン。その知られざる魅力を専門家が余すところなく紹介する。ロシア・中国の裏庭に位置するこの国は、日本の将来にとって重要なパートナーとなる可能性を秘めている。 978-4-7503-4062-3

イスラーム法の「変容」

イスラームを知る17
大河原知樹・堀井聡江著
A 5判 予128頁 1,200円 山川出版社〔12月刊〕

歴史的に内容は一様ではなく、西洋文化との邂逅により大きな変容を迫られたイスラーム法の実態や変容の過程を明らかにする。 978-4-634-47477-2

ホメイニー

世界史リブレット人100
富田健次著
A 5 変型判 未定 800円 山川出版社〔12月刊〕

イラン革命の指導者ホメイニー。近代西欧化を是とする世界に向け、被抑圧者救済とともにイスラーム覚醒を主張した彼の思想を考察する。 978-4-634-35100-4

ティムール

世界史リブレット人36
久保一之著
A 5 変型判 未定 800円 山川出版社〔12月刊〕

草原とオアシスの世界に強大な帝国を築いた中央アジアの英雄ティムール。新時代のすぐれた指導者であった彼の生涯や事蹟を追う。 978-4-634-35036-6

イギリスを知るための65章【第2版】

近藤久雄、細川祐子、阿部美春著

四六判 360頁 2,000円 明石書店〔11月刊〕

伝統と最新トレンドが交差する国、イギリス。メディアでも多く取り上げられ、すっかりお馴染みの国であるものの、まだまだ知られざる魅力に満ちている。イギリス初心者はもちろん、イギリス好きの人にもより奥深い世界を発見できる、イギリスガイドの決定版。978—4—7503—4103—3

近世スコットランドの王権

ジェームズ六世と「君主の鑑」

小林麻衣子著

A 5判 330頁 6,000円 ミネルヴァ書房〔11月刊〕

イギリス内戦の萌芽が看取される専制君主として、否定的に捉えられてきたジェームズ六世。王権神授説の提唱者という一面的な捉え方から脱し、近代国家形成につながるルネサンス君主としての王権論を分析する。978—4—623—07109—8

植民地支配と開発

山川歴史モノグラフ29

網中昭世著

A 5判 308頁 5,000円 山川出版社〔11月刊〕

南アフリカで展開された金鉱業を軸に、移民労働によるアフリカ社会の変容に目を向け、植民地支配の構造的把握をはかる。

978—4—634—67386—1

人喰いの社会史

弘末雅士著

四六判 240頁 2,600円 山川出版社〔11月刊〕

文化の仲介者たるインフォーマントに着目し、大航海時代から現代までのおもにスマトラを舞台に、異文化接触と共存への路筋を解き明かす。

978—4—634—64073—3

キューバ革命勝利への道

フィデル・カストロ自伝

フィデル・カストロ・ルス著 工藤多香子、田中高、富田君子訳

四六判 520頁 4,800円 明石書店〔10月刊〕

フィデル・カストロが自ら綴ったキューバ革命の回顧録。1958年夏から59年1月1日の革命成功までの軌跡を書簡、ラジオ放送の原稿などを基に描く。革命成就時のサンティアゴ・デ・クーバでの演説全文も収録。20世紀の偉人の貴重な自伝、待望の邦訳。978—4—7503—4086—9

文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

日本型ODAと財政

構造と軌跡

竹原憲雄著

A 5判 580頁 7,000円 ミネルヴァ書房〔12月刊〕

戦後日本の経済財政とODAの展開過程を踏まえ、円借款と国際開発金融機関への支援を重視した重層的で特異な借款構造を理論的・実証的に解明、日本型ODAの実態と特性及び課題を明確にする。978—4—623—07236—1

清沢満之と日本近現代思想

自力の呪縛から他力思想へ

山本伸裕著

四六判 288頁 3,000円 明石書店〔10月刊〕

近代化を迎え、西洋の文物が大量に流入した時代に宗教を哲学として語りうとした清沢満之。西田幾多郎ら京都学派に影響を与えるほどであったが、仏教界の国家主義への追従などを背景に急速に忘れられた存在となった。夏目漱石や正岡子規らの文人や、日本思想史に清沢が与えた影響と彼が到達した他力思想の可能性を探る。978—4—7503—4092—0

熊沢蕃山の思想冒険

山田芳則著

A 5判 224頁 5,000円 思文閣出版〔12月刊〕

蕃山の思想は朱子学と陽明学との中間に位置しているという従来の通説を批判。仏教・儒教・神道を空間的・時間的に相対化するものであることを明かす。

978—4—7842—1783—0

蘭溪和尚語録

蘭溪道隆禪師全集 第一巻

佐藤秀孝・館 隆志編

B 5判 668頁 15,000円 思文閣出版〔11月刊〕

鎌倉中期の渡來僧、臨濟宗建長寺の開山蘭溪道隆の語録「蘭溪和尚語録」(鎌倉期刊行の覆宋五山版)の原文影印と翻刻に、訓註・補注・解題を付して全貌を明かす。

978—4—7842—1777—9

親鸞の阿闍世観

苦悩と救い

三明智彰著

A 5判 予120頁 1,512円 法蔵館〔11月刊〕

“極悪人”阿闍世はなぜ救われ、その救いとは何であり、それによって阿闍世はどうなったのか。悪人の救済こそが釈尊の正意とした親鸞の教学における、「阿闍世」の意味を追及。

978—4—8318—8728—3

大系真宗史料 文書記録編 5

戦国記録編年

真宗史料刊行会編／担当 木越祐馨
A 5判 350頁 10,000円 法藏館〔12月刊〕

永享七年（1435）正月から永禄十三年（1570）九月までの百三十五年間の真宗関係史料を、古記録、軍記、覚書、編纂物等を、主に刊本を中心に蒐集し、編年体で集成。
978-4-8318-5064-5

法然仏教の諸相

藤本浄彦先生古稀記念論文集刊行会編

A 5判 予1300頁 27,000円 法藏館〔12月刊〕

宗門の枠を超え、世界的視野で法然浄土教を捉えてきた佛教学名譽教授藤本浄彦先生の古稀を祝し、仏教学から福祉・経済学に至るまで、総勢69名による論考を一挙収載。仏教学・宗教学・哲学・浄土教研究者必備の大論集。 978-4-8318-7703-1

墓と葬送のゆくえ

歴史文化ライブラリー-391

森 謙二著
四六判 224頁 1,700円 吉川弘文館〔11月刊〕

近年、祖先祭祀等の伝統的思想が変質しようとしている。人々の意識や家族関係の変化から読み解き、「埋葬」されることの意味を問う。
978-4-642-05791-2

親鸞と歎異抄

歴史文化ライブラリー-392

今井雅晴著
四六判 224頁 1,700円 吉川弘文館〔12月刊〕

現代に生きる親鸞。歎異抄の原文に平易な現代語訳を付し、丹念に読み解く。今なお人々の心を惹き付けてやまない親鸞の思想を探り出す。
978-4-642-05792-9

空海伝の研究

後半生の軌跡と思想

武内孝善著
A 5判 624頁 13,000円 吉川弘文館〔12月刊〕

空海の後半生における諸問題を解明。東寺の下賜・安居・東寺長者、歴代天皇と灌頂儀式、東大寺真言院など、空海伝の見直しを迫る。
978-4-642-04616-9

平家物語生成考

浜畑圭吾著

A 5判 320頁 7,000円 思文閣出版〔11月刊〕

平家物語諸本の比較を通して独自の表現や記事、改変された部分をあぶり出し、その基盤の追究から、物語生成の動機や場、背景をつぶさに考察する。 978-4-7842-1769-4

読みなおす 日本の原風景

古典文学史と自然 はなわ新書83

森 朝明著
新書判 216頁 1,300円 塙書房〔11月刊〕

記紀・万葉集・風土記から源氏物語へ。そして西行・芭蕉・良寛まで。神話・物語・和歌・俳諧、さらに仏教書・芸道書などにわたり古典文学史の歩みが育んだ自然観を読み解く。
978-4-8273-4083-9

宮沢賢治

すべてのさいはひをかけてねがふ

千葉一幹著
四六判 324頁 3,000円 ミネルヴァ書房〔12月刊〕

岩手において「銀河鉄道の夜」などの童話、「永訣の朝」などの詩を作り続けるも、37歳で亡くなった宮沢賢治。本書では、その信仰・農業・文学の三側面に注目し、賢治という人物がなぜ生まれたのか、その意味を探る。 978-4-623-07245-3

曾我物語の史的研究

坂井孝一著

A 5判 362頁 11,000円 吉川弘文館〔11月刊〕

長く日本人を魅了しながら、戦後GHQによりタブー視されてきた『曾我物語』を再評価。文学的意図や価値、虚構と意義を解明する。
978-4-642-02921-6

風俗絵画の文化学Ⅲ

瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編
A 5判 434頁 7,000円 思文閣出版〔11月刊〕

「風俗絵画研究会」の成果をまとめたシリーズ第3弾。東西のエクリチュール／美のメディア／演出のメカニズム／信仰のプラットフォームの4部で構成。 978-4-7842-1775-5

視覚と心象の日本美術史

作家・作品・鑑賞者のほざま

古田 亮著
A 5判 432頁 8,000円 ミネルヴァ書房〔9月刊〕

近代日本の美術作品を通して、〈見る〉ことに対する認識と変遷を問い、不可視の領域までも見据える。ファインアートとは何かを根源的に突き詰め、新生面を拓く。
978-4-623-07089-3

明治絵画と理想主義

横山大観と黒田清輝をめぐって シリーズ近代美術のゆくえ
植田彩芳子著
A 5判 244頁 4,200円 吉川弘文館〔11月刊〕

日本画と洋画の美学的背景を探り、明治後期の日本で西洋の理想主義がいかに受容されたのかを、近代美術の展開と合わせ検討する。
978-4-642-03838-6

萬葉集研究 第35集

福岡耕二監修／神野志隆光・芳賀紀雄編
A 5判 384頁 11,500円 塙書房〔11月刊〕

萬葉集研究の最先端。毎年1冊刊行。学界第一線に活躍中の執筆者が、心ゆくまで意を尽くした、現万葉学の進歩に資する鋭利な新稿論文を収める。
978-4-8273-0535-7

アメリカのろう者の歴史

写真でみる〈ろうコミュニティ〉の200年
ダラス心バインド・ジャック・R・ギャン、ジョン・リドキスト・パーキ著 松崎あゆみ訳 西川美樹訳
A 4変型判 168頁 9,200円 明石書店〔10月刊〕

本書は、ギャロウデット大学図書館等が所蔵する200点を超える写真を通して、アメリカのろう者の歴史を描いたもの。スミソニアン研究所による写真展「ろう者の目から見た歴史」をベースとして、過去2世紀にわたるろうコミュニティの歴史をたどる。
978-4-7503-4087-6

世俗を生きる出家者たち

上座仏教徒社会ミャンマーにおける出家生活の民族誌
藏本龍介著
A 5判 336頁 5,000円 法蔵館〔12月刊〕

上座仏教の出家者は、世俗からの離脱をめざす教義と現実の相克をいかに克服しようとしているのか。現代ミャンマーをフィールドに、出家者の経済生活を支える財に注目して検討。
978-4-8318-7443-6

みたい！しりたい！しらべたい！日本の祭り大図鑑① 病やわざわいをはらう祭り

松尾恒一監修・著
A B判 32頁 2,800円 ミネルヴァ書房〔11月刊〕

人々の暮らしに根ざした日本各地の祭りを紹介するシリーズ。第1巻は、山車や神輿が町や村をめぐるにぎやかな夏祭りの発端となった祇園祭や、体内の魂の力を高めることを願って舞う神楽など、病や災いをはらう祭りをとりあげる。
978-4-623-07231-6

みたい！しりたい！しらべたい！日本の祭り大図鑑② 先祖とともにすごす祭り

松尾恒一監修・著
A B判 32頁 2,800円 ミネルヴァ書房〔12月刊〕

人々の暮らしに根ざした日本各地の祭りを紹介するシリーズ。第2巻は、先祖の霊を迎える盆の時期に盆行事としておこなわれる祭りや、盆踊り、先祖の霊をおくりだす祭りなど、先祖とともにすごす祭りをとりあげて紹介。
978-4-623-07232-3

嘉納治五郎と安部磯雄

丸屋武士著
四六判 310頁 2,600円 明石書店〔9月刊〕

講道館柔道の創始者・嘉納治五郎と早稲田大学野球部初代部長・安部磯雄は、ともに教育者としても名高い。本書は、近代日本のスポーツと教育を世界に通用するものとして確立していった二人の先駆者の生き様を、今日の日本の読者に伝えるものである。
978-4-7503-4070-8

地 理

歴史の旅 中世の高野山を歩く

山陰加春夫著
A 5判 220頁 2,600円 吉川弘文館〔11月刊〕

真言密教の道場、入定信仰の霊場…。空海開創以来の信仰と文化を、中世を中心に豊富な写真と地図を交えて辿り、その魅力に迫る。
978-4-642-08259-4

※表示価格は、すべて本体価格です。

雑誌

日本歴史

12月号 (第799) =11月刊
2015年1月号 (第800) =12月刊

日本歴史学会編集

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料8,300円〔税・送料込〕

◆各種割引制度有

二年間前払い16,000円〔税・送料込〕

三年間前払い23,500円〔税・送料込〕

A 5判 12月号=130頁、1月号=178頁

12月号=741円、1月号=972円

吉川弘文館〔11・12月刊〕

学生・院生 一年間5,000円〔税・送料込〕

重版

キリシタン大名の考古学

別府大学文化財研究所企画シリーズ②「ヒトとモノと環境が語る」
別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分県考古学会編
B 5判 178頁 3,800円 思文閣出版〔11月刊〕

考古学だけではなく、文献学や分析科学などの他領域の成果も融合し、新しい戦国城下論・キリシタン考古学論・流通論など、新たな研究手法を提示する。

978-4-7842-1472-3

※表示価格は、すべて本体価格です。

歴史書以外の——

人文社会図書新刊案内

2014. 11・12

— 明石書店 —

- イスラーム世界のジェンダー秩序 「アラブの春」以降の女性たちの闘い 辻上奈美江著
四六判 2,500円 10月
- 現代を読み解くための西洋中世史 差別・排除・不平等への取り組み
 シーリア・シャゼル、サイモン・ダブルデイ著四六判 4,600円 10月
- そろそろ「社会運動」の話をしよう 他人ゴトから自分ゴトへ。社会を変えるための実践論 田中優子著
四六判 2,000円 10月
- 格差と不安定のグローバル経済学 ガルブレイスの現代資本主義論
 ジェームス・K・ガルブレイス著四六判 3,800円 10月
- 近現代日本政治と読売新聞 ジャーナリズムの使命を問い直す 高橋義雄著四六判 2,500円 10月

— 思文閣出版 —

- 月を愛でる うつろいと輝きの美 逸翁美術館編A 4判 1,000円 11月

— 法 藏 館 —

- うつは、治す努力をやめれば治る 大住 誠著四六判 2,800円 12月

— ミネルヴァ書房 —

- 超入門経済学 高橋知也・鈴木久美著四六判 2,500円 11月
- 学歴主義と労働社会 野村正實著A 5判 5,000円 11月
- 大人になって読む経済学の教科書 江口匡太著四六判 3,000円 12月
- 〈日本幻想〉表象と反表象の比較文化論 野田研一編著四六判 3,500円 12月
- 白鯨 千石英世編B 5判 2,800円 12月
- 農業問題の基層とはなにか 末原達郎・佐藤洋一郎・岡本信一・山田 優著
四六判 2,500円 12月
- 日本農業への問いかけ 桑子敏雄・浅川芳裕・塩見直紀・櫻井清一著四六判 2,500円 12月
- 欧州財政統合論 尾上修悟著A 5判 5,500円 12月
- 映画とイデオロギー 加藤幹郎監修、杉野健太郎編著A 5判 4,200円 12月

※表示価格は、すべて本体価格です。

*** 会員社刊行の2014年受賞図書 ***

〈日本ソーシャルワーク学会学術奨励賞〉

『在宅高齢者へのソーシャルワーク実践』 高瀬幸子著

..... A 5判 4,600円 明石書店

日本ソーシャルワーク学会は、ソーシャルワークの理論研究並びに実践活動の推進を図ることを目的として、本学会の初代会長であった小松源助氏のご寄付を基金とし、それによるソーシャルワークの若手研究者の研究と実践の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする学術奨励賞を設定した。

〈日本地理学会賞〉

『アホウドリと「帝国」日本の拡大』 平岡昭利著 A 5判 6,000円 明石書店
地理学の研究または普及発展に関して顕著な功績のあった団体（日本地理学会の非会員も含む）を対象とするものです。

〈人文地理学会賞〉

『アホウドリと「帝国」日本の拡大』 平岡昭利著 A 5判 6,000円 明石書店
人文地理学会が発行する雑誌『人文地理』に掲載された論文の中で、特に優秀であった論文に対して年に一度授与されるものです。

〈地理空間学会学術賞〉

『アホウドリと「帝国」日本の拡大』 平岡昭利著 A 5判 6,000円 明石書店
特に顕著な研究業績を公刊した会員に授与する。

〈第12回徳川記念財団「徳川賞」〉

『日本近世の行政と地域社会』 吉村豊雄著 A 5判 12,000円 校倉書房
日本近世に関する学術研究書に与えられる。今回は平成25年刊行書が対象。

〈平成25年度茶道文化学術奨励賞〉

『近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ』 依田 徹著

..... A 5判 6,400円 思文閣出版

主催、大日本茶道学会。茶道文化研究に大きな貢献をしたと認められる著作・論文に対して授与する。

〈第8回日本思想史学会奨励賞〉

『撰閲院政期思想史研究』 森 新之介著 A 5判 6,500円 思文閣出版
2007年創設。日本思想史学の発展に資する著者・論文を公刊した会員に授与。

〈平成25年度古代しまね賞〉

『「古事記」なるほど謎解き 100話』 瀧音能之著 ……四六判 1,800円 東京堂出版
奈良県が創設した、『古事記』の魅力を伝える優れた出版物を表彰する「古事記出版大賞」。その中で島根県にちなんだ書籍から選ばれる賞。

〈平成25年度浄土宗学術賞〉

『迦才『浄土論』と中国浄土教』 工藤量導著……………A 5判 12,000円 法蔵館
 浄土宗の教学振興への多大なる貢献があったとして、優れた学術書の執筆者に対して贈られる賞。

〈第35回日本出版学会賞奨励賞〉

『近世出版の板木研究』 金子貴昭著……………A 5判 7,500円 法蔵館
 出版およびそれに関連する事項の調査、研究を促進した優れた学術書の執筆者に対して贈られる賞。

〈第49回柳田賞〉

『真宗民俗史論』 蒲池勢至著……………A 5判 8,000円 法蔵館
 優れた民俗学研究者に贈られる賞（成城大学・柳田賞委員会主催）。

〈第30回大平正芳記念賞〉

『日米構造協議の政治過程』 鈴木一敏著……………A 5判 6,000円 ミネルヴァ書房
 「環太平洋連帯構想」の発展に貢献する政治・経済・文化・科学技術に関する優れた著作に授与される。

〈第62回日本エッセイスト・クラブ賞〉

『天才と異才の日本科学史』 後藤秀機著……………四六判 2,500円 ミネルヴァ書房
 随想、評論、ノンフィクション、伝記、研究、ドキュメント、旅行記など、エッセーを広い範囲でとらえ、新人エッセイストの発掘に努めることを目指す。

〈第24回（2013年度）ミズノスポーツライター賞 優秀賞〉

『国立競技場の100年』 後藤健生著……………四六判 2,500円 ミネルヴァ書房
 スポーツ界とスポーツ文化のさらなる発展に寄与することを目的に、「スポーツの世界を文字で描き伝える」スポーツライターの業績を顕彰する。

〈第10回（2014年）竹尾賞 デザイン評論部門 優秀賞〉

『国立競技場の100年』 後藤健生著……………四六判 2,500円 ミネルヴァ書房
 ヴィジュアル・コミュニケーションのあり方を深く洞察する活動、またはその発展に努力している人を推奨・賞賛し、表彰する。

〈第8回企業家研究フォーラム賞〉

『井上 勝』 老川慶喜著……………四六判 3,500円 ミネルヴァ書房
 企業家活動の研究調査を通じて経済と社会の活性化を図るため、優秀な著書及び論文を選定し、その業績を広く顕彰することを目的とする。

〈第1回寺田真理記念・日本研究賞 特別賞〉

『周作人伝』 劉 岸偉著……………A 5判 8,000円 ミネルヴァ書房
 政治、経済、安全保障、社会、歴史、文化の各分野で、日本に対する理解を増進する、内外の優れた日本関係研究を顕彰する。

〈第25回国際安全保障学会最優秀出版奨励賞 佐伯喜一賞〉

『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史』 道下徳成著 …… A 5判 4,800円 ミネルヴァ書房
防衛・安全保障に関わる研究を奨励する目的から、学会会員が著した学術的研究書に授与される。

〈第12回日本 NPO 学会優秀賞〉

『社会関係資本』 三隅一人著 …… 四六判 3,200円 ミネルヴァ書房
日本の NPO・NGO・ボランティアなどに関する書籍、報告書、論文等のうち、特に優れたものに対して、一層の研鑽を奨励することを目的とする。

〈第12回日本 NPO 学会優秀賞〉

『個人加盟ユニオンと労働 NPO』 遠藤公嗣編著
…………… A 5判 5,000円 ミネルヴァ書房
日本の NPO・NGO・ボランティアなどに関する書籍、報告書、論文等のうち、特に優れたものに対して、一層の研鑽を奨励することを目的とする。

〈第15回日本社会心理学会賞 出版賞〉

『格差と序列の心理学』 池上知子著 …… 四六判 2,400円 ミネルヴァ書房
会員の優れた研究業績を顕彰することで、研究のより一層の発展に資することを目的として設けられた。

〈2013年度日本ドイツ学会奨励賞〉

『ドイツにおける原子力施設反対運動の展開』 青木聡子著
…………… A 5判 6,000円 ミネルヴァ書房
ドイツ語圏に関する「将来性に富む優れた研究業績を顕彰」し、「ドイツ語圏に関する学際的学術研究の発展に資することを目的」として制定。

〈第64回日本都市学会賞 奥井記念賞〉

『モダン東京の歴史社会学』 松橋達矢著 …… A 5判 3,800円 ミネルヴァ書房
故奥井復太郎日本都市学会初代会長の都市研究の功績を記念し、都市研究の進歩発展に顕著な貢献をしたものを表彰することを目的とする。

〈第38回日本児童文学学会奨励賞〉

『石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか』 竹内美紀著
…………… A 5判 4,200円 ミネルヴァ書房
我が国の児童文学・児童文化研究の発展に寄与する、年度ごとの優れた業績や新人による意欲的な労作に対して授与される。

〈第2回古代歴史文化賞 準大賞〉

『若い人に語る奈良時代の歴史』 寺崎保広著 …… 四六判 2,800円 吉川弘文館
古代史に関係の深い三重県・奈良県・和歌山県・島根県・宮崎県からなる古代歴史文化協議会により、古代歴史文化に関する書籍を表彰することを通して、国民の歴史文化への関心を高めることを目的として創設した賞。学問的基礎の上に立ちながらも、一般向けに分かりやすく書かれた書籍を対象とする。

〈第3回三島海雲学術賞〉

『近世琉球と中日関係』 渡辺美季著……………A5判 10,000円 吉川弘文館
公益財団法人三島海雲記念財団により、自然科学及び人文社会科学の学術研究領域
において、とりわけ創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者（45歳未満）
を顕彰し、その研究の発展を支援することを目的とする賞。

〈第5回日本生活文化史学会賞〉

『伊勢神宮を造った匠たち』 浜島一成著……………四六判 2,300円 吉川弘文館
日本生活文化史学会による学術奨励賞。

2014年歴史書懇話会研修旅行記

—郡山・仙台・山形—

深谷 直樹

(明石書店)

歴史書懇話会としては7年ぶりに訪問することになった東北地方。今年の研修旅行は郡山・仙台・山形へ2泊3日の行程でお訪ねした。

初日はまず郡山駅で下車し、岩瀬書店富久山店様とジュンク堂書店郡山店様を訪問。久しぶりに郡山を訪れる会員社も少なくなく、街の変化(特に駅前)をしみじみと感じていた。岩瀬書店富久山店に到着するとフロア長の尾形様、外商部の斉藤様が迎えてくださった。書籍だけでなくCD/DVD、雑貨などの幅広い商品を扱っており、カフェも併設された店内は、半日いても飽きないエンターテインメント空間としても充実していた。ジュンク堂書店郡山店は地域最多の品揃えを誇る書店であり、会員社の常備も多数置いていただいている。棚は整頓されており、シリーズ商品もしっかり揃えられていた。人文担当の関根さんによると、階上で定期的に開催される物産展に合わせて書店の客層も入れ替わるという。百貨店テナントならではのお話であった。

その後、足早に仙台へ向けて移動。午後から市内のホテルにて地域の書店様・販売会社様が一同に会し、恒例の販売研修会がおこなわれた。事

前にお送りいただいたアンケートをもとに、歴史書や郷土史関連書の販売状況、新刊の情報源や品揃えについて伺いました。仙台ではやはり地元紙である河北新報の力が非常に強いようで、書評や紹介記事が掲載されると売上に大きく影響するという。

販売会社様にご用意いただいた売上データを分析すると、数あるジャンルの中でも特に歴史書は定番・ロングセラーの既刊商品が売上の大部分を占めていることが読み取れた。そうした状況のなかで、点数の多い新刊をどのように陳列し販売していくのか、またどの程度の期間で商品を入れ替えるべきかという議論が活発におこなわれた。

そのほか、出版社からの新刊案内は書店様にとってどのような形式のものが好ましいかという議題も細かいところまで掘り下げられた。議論のなかで新刊の情報源としてFAXによる案内が今でも非常に有効だということを改めて認識した。的確に情報をお伝えするために、どのような文面・レイアウトでご案内を差し上げるべきかを考える良い機会になった。

研修会にご参加いただいた書店様

の規模は1,000坪を超える大型店から数十坪の小規模店まで多様であったが、多くの店舗に共通した課題は、「専門書をどこまで・どのように扱うかと」ということであった。販売会社から送られてくるデータをもとに商品の回転率を確認すると、ほとんど動きがない書籍も少なくないという。「話題の書」を好む読者に一歩踏み込んだ歴史書を手にとってもらうためには、どのような工夫が求められるのか。私たち専門書を扱う出版社は本気で知恵を絞らなければならないと感じた。

その後の懇親会では和やかな雰囲気の中出版、書店様、販売会社様が入り混じり、各々の立場からざっくばらんに意見を交換することができた。参加していただいた方々の抱える問題は人それぞれではある

けれど、立場の異なる参加者が集まり、打ち解けた雰囲気の中会話できたことは非常に貴重な機会になったといえる。

翌日は仙台市内の書店様を訪問。午前中は駅周辺の店舗（ジュンク堂書店仙台本店→ジュンク堂書店仙台TR店→丸善仙台アエル店）、午後は郊外エリアの店舗（東北大学生協文系書籍店→仙台八文字屋書店→葎屋書店仙台泉店→紀伊國屋書店仙台店）。その後、山形のTENDO八文字屋へと移動するというタイトな旅程であった。午前中に訪問した駅前の書店様では、前日の研修会での議論をふまえ、新刊案内や棚の状況について現場で意見交換をすることができた。午後に訪問した4店舗様については、はじめて訪問する会員社も多く、棚をじっくりと拝見させて



東北大学川内キャンパスにて

いただいた。TENDO八文字屋様に到着したのは午後6時近く。遅い時間の訪問になってしまったにもかかわらず、店舗の皆様には暖かく迎えていただいた。店内は明るく非常に綺麗で整理整頓が行き届いており、お客様が商品を探しやすいレイアウトになっている印象を強く受けた。

夜は天童市内の旅館に宿泊。湯煙のなか、じっくりと二日間を振り返ることとなった。

最終日は山形市内の書店様を訪問。はじめにお訪ねしたのは、こまつ書店寿町本店様。ご多忙の中にも関わらず、ご対応いただいた上、地元名産の飲み物まで頂戴し、感激しました。店舗の閉店時間表記が深夜0:03という半端な時間であることの謎が解けぬまま、八文字屋本店様

へ移動。店内に入ると名物の巨大な提燈が目飛び込んでくる。歴史と伝統を感じさせる売り場は、レトロながら古臭さは全くなく、居心地の良い絶妙の雰囲気であった。その後、八文字屋各店のみなさまと意見交換をしながらの昼食をとり、研修旅行のプログラムを終えた。

7年ぶりの東北研修旅行となったが、この間、私たち出版社、書店様、そして東北地方を取り巻く状況は大きく変わった。しかし、そのような変化を経ても、地元の書店様は私たちの訪問を温かく迎えてくださり、前向きな議論・意見交換をすることができた。今後も歴史書懇話会として、こうした良好な関係を維持していけるよう努力していきたいと思う。

歴史ニュース

早いもので、今年も残り1ヶ月になります。まもなく総選挙です。2年前の〈歴史ニュースNo205〉も同じ言葉で始めた事を思い出します。この『歴史書通信』をお手元にお届けできる頃には、次期政権が発足していることでしょう。

◆今年も私たち歴史書懇話会は月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを開催してまいりました。今までご参加頂いた書店さんと少し入れ替わりもありましたが、現在は下記の9書店で開催しています。お近くの読者の皆様、折々に変わる歴史書の棚をお楽しみください（かっこの数字はフェア開始の日付）。

◇天童市 TENDO 八文字屋（2006年7月～）／◇新潟市紀伊國屋書店新潟店（2007年8月～）◇松江市今井書店グループセンター店（2008年6月～）／◇新宿区芳林堂書店高田馬場店（2010年4月～）◇大阪市喜久屋書店阿倍野店（2013年11月～）／◇紀伊國屋書店グランフロント大阪店（2013年11月～）／◇大阪市ジュンク堂書店上本町店（2013年11月～）／◇神戸市ジュンク堂書店三宮駅前店（2014年6月～）／◇出雲市今井書店出雲店（2014年7月～）9書店の皆さま、来年もよろしくお願ひ致します。

◆今年も異常気象、災害と続きました。2月：関東・甲信地方を中心として2週連続の大雪となった事に始まり（平成26年豪雪）、6月：梅雨時期の記録的な少雨、一方で8月には記録的な集中豪雨（平成26年8月豪雨）、9月：御嶽山噴火、さらに11月：長野県神城断層地震……。多くの被災者の方々が1日も早く元の生活を取り戻せるように祈念します。

◆他方で今年は、① 日本とカナダ修好85周年、② 日本・トルコ国交樹立90周年、③ 日本・スイス国交樹立150周年と、記念の年の当たり年でもありました。それぞれに記念事業が両国間で続き、記念行事の一環として両国の歴史研究者によるシンポジウムなども開催されました（日本・トルコの共催「アブデュルレシト・イブラヒムとその時代」等々・・・）。

◆さて、年末も間近になって、日本映画史上忘れられない名優2人高倉健・菅原文太両氏が逝きました。多くの方々が2人について語っています。私も、菅原文太氏と自由民権に関わるささやかな思い出に触れて、今年のニュースのメとさせて頂きます。1981年11月21日（土）～22日（日）、横浜市の神奈川県民ホールで自由民権百年全国集會が開かれました。実行委員長は遠山茂樹先生。会の目的は「自由民権運動を民主主義の原点として見直し、現代的意義を問う」。各地の民権運動家の遺族も参加。この壇上に菅原文太氏が登場！（私も含めて）会場は万雷の拍手でした。その前年NHKの大河ドラマ「獅子の時代」で、徹底的に国家権力に立ち向かう主人公平沼銚次を演じていた折の姿と重なって、その時の菅原文太氏は自由民権運動を顕彰する会場にピッタリでした！ 記憶は定かではないのですが、確かチェ・ゲバラの話だったように思います。ご冥福をお祈りします。

私たち歴史書懇話会はこれからも、日本の歴史学の発展を願って、歴史書を楽しみ、歴史学のすそ野が広がるように、務めてまいります。

どうぞ皆さま良いお年をお迎えください。

(FN)

歴史書懇話会とは

1968年6月に歴史書を刊行する有志出版社7社で結成され、現在12社が加盟しています。結成以来40年余「すぐれた歴史書の普及とその販売を積極的に推進する。本会はその目標達成のため、会員相互の協力によって必要な研究ならびに事業を行う。」(会規約)の精神に基づき活動しています。

＜歴史書懇話会＞の主な事業

「歴史書通信」(隔月刊)最新の歴史書情報を提供しています！

会員各社の新刊・重版情報、誌上フェア、書店情報を掲載する出版情報誌。歴史関連のエッセイなども掲載し、歴史知識の普及をはかっています。ご購入を希望される方は最寄の書店を通して、事務局までお申込み下さい。

「歴史書ベストフェア」小規模書店にも本格派の歴史書を！

全国約120書店で会員社の歴史書80冊余を1年間展示販売しています。選択セットを加え、最大規模は190冊のセットとなります。出品リスト及び販売店一覧は「歴史書通信」5月号に掲載します。

「特設店」全国に21拠点、専門書の充実した品揃えが魅力です！

特設店を設けて、歴史専門図書の店頭展開をはかっています。現在、全国主要都市に21店の特設店があり、一般書店では展示販売できない歴史専門書の店頭販売に協力をお願いします。特設店では多くの新刊・常備品を揃えるとともに、テーマフェア、各社フェアを随時開催しています。

「歴史リバイバル」毎年秋の復刊書フェアとしてご好評いただいています。

毎年5月に統一復刊・重版事業「歴史リバイバル」を実施しています。一社では困難な専門書の復刊・重版を共同で行う活動です。読者から要望の多い名著や基本図書を復刊し、特設店を中心に毎年100店近い書店・大学生協で店頭フェアを展開しています。

「ホームページ」&「メール通信」による情報発信

当会のホームページでは、新聞書評情報、歴史書の検索、書店フェアや各社の新刊案内、特設書店とのリンク、歴史書懇話会からメール通信を配信するメールアドレス登録の受付、「歴史書通信」PDF版などを掲載しています。メール配信のお申込みは<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>からお願いします。

会員社 明石書店・校倉書房・汲古書院・思文閣出版・東京堂出版・刀水書房・同成社・塙書房・法藏館・ミネルヴァ書房・山川出版社・吉川弘文館

歴史書懇話会特設店

ジュンク堂書店	仙台TR店	〒980-0021 仙台市青葉区中央3-6-1 仙台TRビルB1F ☎022-265-5656
岩瀬書店	富久山店	〒963-8051 郡山市富久山町八山田 字大森新田36-1 ☎024-936-2220
煥乎堂	本店	〒371-0023 前橋市本町1-2-13 ☎027-235-8111
須原屋	本店	〒330-0062 さいたま市浦和区仲町2-3-20 ☎048-822-5321
岩波ブックセンター	信山社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3 ☎03-3263-6601
東京堂書店	神田神保町店	〒101-0051 千代田区神田神保町1-17 ☎03-3291-5181
芳林堂書店	高田馬場店	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-26-5 F Iビル ☎03-3208-0241
ジュンク堂書店	池袋本店	〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-15-5 ☎03-5956-6111
有隣堂	本店	〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町1-4-1 ☎045-261-1231
Booksなかだ	本店	〒939-8212 富山市掛尾町180-1 ☎076-492-1192
うつのみや	柿木畠本店	〒920-0962 金沢市広坂1-1-30 ☎076-234-8111
平安堂	長野店	〒380-0825 長野市末広町1355-5 ☎026-224-4550
精文館書店	本店	〒440-8517 豊橋市広小路1-6 ☎0532-54-2345
ちくさ正文館	本店	〒464-0075 名古屋市中種区内山3-28-1 ☎052-741-1137
ジュンク堂書店	京都店	〒600-8005 京都市下京区四条富小路角 ☎075-252-0101
ジュンク堂書店	大阪本店	〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20 堂島アバンザ1〜3F ☎06-4799-1090
ジュンク堂書店	千日前店	〒542-0075 大阪市中央区難波千日前12-7 Y. E. S. NAMBAビル ☎06-6635-5330
ジュンク堂書店	三宮店	〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-6-18 ☎078-392-1001

フタバ図書	T E R A 広島府中店	〒735-8588 広島県安芸郡府中町大須2-1-1 ダイヤモンドシティ・ソレイユ ☎082-561-0770
りーぶる	天 神	〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-18 サンビル1F ☎092-713-1001
ジュンク堂書店	福 岡 店	〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-13 天神 MMT ビル ☎092-738-3322

2014年12月現在

歴史書懇話会ホームページ

<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>

歴史書懇話会会員社ホームページ

明石書店	http://www.akashi.co.jp/
校倉書房	http://www.azekurashobo.com/
汲古書院	http://www.kyuko.asia/
思文閣出版	http://www.shibunkaku.co.jp/
東京堂出版	http://www.tokyodoshuppan.com/
刀水書房	http://www.tousuishobou.com/
同成社	http://homepage3.nifty.com/douseisha/
塙書房	http://www.hanawashobo.co.jp/
法藏館	http://www.hozokan.co.jp/
ミネルヴァ書房	http://www.minervashobo.co.jp/
山川出版社	http://www.yamakawa.co.jp/
吉川弘文館	http://www.yoshikawa-k.co.jp/

歴史としての 東日本大震災



岩本由輝編（執筆） 岩本由輝・河野幸夫・菊池慶子・佐々木秀之
東北に暮らす歴史家三人と科学者一人が、体験をもとに大震災を歴史の中に位置づける。シミュレーションによる「安全神話」より、地元の言伝えの方が、はるかに人々の身を守る知恵になっていたことを、様々な史料から検証。

A5 二四〇頁 ¥二、二〇〇

2刷出来

復刻 兵隊 雑誌

南支派遣軍報道部刊／大演徹也解説
四六倍判・36冊4合本・一九四四年 投稿者三三七四人
¥三、〇〇〇（兵隊 補遺3冊合本、¥三、〇〇〇）

日中戦争中（昭和14年5月～19年2月）、中国広東で南支派遣軍が発行していた、兵隊が自由に投稿できる雑誌。初代編集長は火野葦平。ありのままの戦争を知るための第一級の史料。20年を掛けて原本を集めたが、刊行直後続巻37・39号を発見。「補遺」を刊行、完全復刻を実現した。

「推題の言葉から」へえ、「兵隊」なんて雑誌？ 小沢昭一

：反戦思想など持つべくもないフツウの兵隊が、何を考え何を言いたかったのか。この「兵隊」から察知できるのです。例えば、敵の少年兵を銃殺して、さらに銃剣で刺す。しかし死にきれないで、バクバクさせている口に水筒の水を分け与えてやった、というような戦争の狂気をまざまざと知る事の出来る「敵少年兵」なる一文も掲載されてあります。また、戦争が始まるのでしょうか。一文ももう始まりかけているようですが、そんな今、「兵隊」が復刻刊行されることの意味は極めて大きいと思われます。

「幻の」兵隊投稿雑誌復刻版 10年前刊行しました!

大好評



大震災や大噴火などの巨大自然災害からは、ひたすら逃げるしか対策はない。このときに唯一役立つのは過去の経験である（本書「まえがき」から）。7年前のトバ噴火から現代まで、火山噴火が歴史に与えた影響を辿る新しい環境史。

歴史を変えた火山噴火

石弘之著「世界史の鏡」環境1
自然災害の環境史

四六並製 一八一頁 ¥一、六〇〇

2刷出来

民族浄化のヨーロッパ史

憎しみの連鎖の二〇世紀
ノーマン・M・ナイマーク／山本明代訳 解説 百瀬亮司・山本明代
「民族浄化」五つの事例を20世紀ヨーロッパ史に辿った問題作！今も断ち切れない負の連鎖。やられた民族が立場変わればやり返す。「本書が伝える教訓を自らに課す覚悟が必要ではないか」（朝日新聞）10／5読書欄

A5 三八〇頁 ¥四、五〇〇

魔女と魔女狩り



W・ベリンガー著／長谷川直子訳（万水歴史全書87）
ヨーロッパ魔女狩りの時代の総合的な概説から、現代の魔女狩りに関する最新の問題まで！ 魔女の世界史

四六 四七頁 ¥三、五〇〇

中世の聖なるイメージと身体

キリスト教における信仰と実践
J・C・シュミット／小池寿子訳（万水歴史全書88）
「中世キリスト教文明の中心テーマ」目に見えない「神性」にどのように「身体」が与えられたか？ 民衆の心性を見つめて歴史人類学という新しい地平を開拓したシュミットの、更なる到達点「イメージ人類学」四六 四〇〇頁 ¥三、八〇〇

1月刊行

大好評

【価格は税抜】
〒101-0065 千代田区西神田2-4-1
東方学会本館

刀水書房

tel. 03-3261-6190 fax. 03-3261-2234
http://www.tousuishobou.com

蒙古襲来

服部英雄 著

四六判 520頁十口絵16頁 本体2400円

蒙古襲来に関わる史料は多数あるが、通説では説明できないところがあった。本書では「蒙古襲来絵詞」を徹底的に読み直すことで従来の解釈を正し、最新の史料を駆使して蒙古襲来像を再検証する。

西洋人の見た朝鮮

金学俊 著

李朝末期の政治・社会・風俗

A5判 584頁十口絵4頁 本体3000円

19世紀のアヘン戦争から20世紀初頭に日本に併合されるまでの朝鮮・韓国の実情を、訪れた西洋人はどう観察していたのか。韓国随一の政治学者が植民地化への内因に迫る。

人喰いの社会史

弘末雅士 著

—カンニバリズムの語りと異文化共存

四六判 240頁 本体2600円

どのような状況で人喰いの語りは創られたのか。インフオマンの役割に着目し、大航海時代から現代まで、スマトラを舞台に異文化接触と共存への道筋を解き明かす。

都市史研究① 2014

都市史学会編

2013年12月に設立された都市史学会の会誌第1号。投稿論文・研究ノートのほか、シンポジウム「都市史の現在」の報告を小特集として掲載。
B5判 168頁 本体3800円

レンズが撮らえた

外国人カメラマンの見た幕末日本①②

小沢健志 監修
三井圭司 編集

B5判 各160頁 オールカラー 各本体1800円

幕末から明治にかけて日本を撮影した23人の外国人カメラマン。日本写真史の原点とも言える秀作写真を挙公開。全2巻完結。

タロットの歴史

井上教子 著

本体2500円

—西洋文化史から図像を読み解く

タロットはいつどこで発祥し、その図像はどのように変遷してきたのか。中世ヨーロッパの歴史や文化に親しみながら、謎に満ちた絵柄を解き明かす。
A5判 304頁 オールカラー

世界史リブレット 人

各本体800円

36 ティムール —草原とオアシスの覇者

久保一之 著 草原とオアシスの世界に強大な帝国を築いた中央アジアの英雄ティムール。モンゴルの面影を色濃く残しながらも新時代のすぐれた指導者であったその生涯を追う。

100 ホメイニー —イラン革命の祖

富田健次 著 イスラームの法規と道徳を具現する社会をめざしたホメイニー。近代西洋化を是とする世界に向け、被抑圧者救済とともにイスラーム覚醒を主張した彼の思想を考察する。

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13

(表示は税別)

電話 03-3293-8131 <http://www.yamakawa.co.jp>

北海道・沖縄、旧植民地、軍隊知識など、かつて日常生活のなかにあった軍隊を、歴史的・社会的に考えるシリーズ！ 既刊各2800円

地域のなかの軍隊

全9巻 刊行中

かつての軍都・連隊町や軍港都市を対象にした都市史の進展により、軍隊と地域社会との関係が明らかにされつつある。多様な視角から軍隊の実態を歴史的に解明。日常生活のなかにあった軍隊の存在を、地域からとらえ直す。

自衛隊史論

政治家・軍・民の六〇年
佐道明広著 3000円

日米安保・海外派遣・集団的自衛権：変わる国際社会、岐路に立つ日本。創設六〇年の歴史を辿り、軍事が果たす役割を問う。



明治絵画と理想主義

植田彩芳子著

明治絵画史における「理想」とは何か？ 明治三十年前後の日本画と洋画を、美学的背景から横断的に考察。4200円

横山大観と黒田清輝をめぐって

歴史文化ライブラリー

390 古代の女性官僚 女官の出世・伊集院葉子著 1800円
一族の期待を背負った、古代キャリアウーマンの生きる道を描き出す！

391 墓と葬送のゆくえ 森謙二著 1700円
墓と葬儀がかりゆく時代を読み解き、「埋葬」されることの意味を問う。

392 親鸞と歎異抄 今井雅晴著 1700円
原文に平易な現代語訳を付し、丹念に読み解きながら親鸞の思想を探る。

393 武士の奉公 本音と建前 江岸時代の
高野信治著 泰平の世をしたたかに生きた。武士たちの姿。1700円

列島中央の軍事拠点 (中)
河西英通編 浜松・豊橋・名古屋・新発田・高田・金沢・敦賀・甲府・松本・長野。軍隊誘致は都市に何をもたらしたのか？ (第2回配本)

大陸・南方膨張の拠点 (九州・沖縄)
林博史編 小倉・熊本・佐世保・知覧・久留米・長崎・沖縄。軍隊はそこに何を残したのか。戦後沖縄と米軍基地にも言及する。(第3回配本)

既刊 日西の軍隊と軍港都市 (中国・四国)……坂根嘉弘編

日本考古学百景

戦前の絵葉書にみる 平田健編 9500円
遺跡と遺物

日本海軍史の研究

海軍史研究会編 9000円
建軍以来、海軍の日本的体質はいかに養われたのか、その実態を究明する。

歴史の旅 中世の高野山を歩く

山陰加春夫著 約一〇〇年に及ぶ崇敬を集める世界遺産・高野山。空海開創以来の信仰と文化を、豊富な図版を交え伝える。2600円

描かれた倭寇 「抗倭図巻」と 東京大学史料編纂所編 2500円
中国で新発見された「抗倭図巻」を全ページカラーで本邦初公開！

読みなおす日本史 好評刊行中
三くだり半と縁切寺 江戸の離婚を 高木侃著 2400円
夫を追い出す女房もいた！。したたかに生きた江戸の女性たちを描き出す！

太平記の世界 列島の内乱史 佐藤和彦著 2200円
後醍醐天皇・足利尊氏・楠木正成。光と闇を生き抜き、戦い続けた人々！

吉川弘文館

(価格は税別) 〒113-0033・東京都文京区本郷7-2 / 電03-3813-9151



歴史手帳

60年ぶり全面リニューアル！

2015年版 900円

[好評増刷出来]

歴史書懇話会

会員社名簿

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田6-9-5 (担当者・深谷直樹)
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1180
- 校倉書房 169-0051 新宿区西早稲田1-1-3 (担当者・石田 亘)
TEL. 03-3203-4851 FAX. 03-3203-4854
- 汲古書院 102-0072 千代田区飯田橋2-5-4 (休会)
TEL. 03-3265-9764 FAX. 03-3222-1845
- 思文閣出版 605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町355 (担当者・井熊勇介)
TEL. 075-751-1781 FAX. 075-752-0723
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町1-17 (担当者・鈴木 淳)
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3233-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田2-4-1 (担当者・中村文江)
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋4-4-8 (担当者・榎 祐典)
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷6-8-16 (担当者・関口守俊)
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 (担当者・西村明高)
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 101-0052 千代田区神田小川町2-4-17 大宮第一ビル6F
TEL. 03-3296-1615 FAX. 03-3296-1620 (担当者・杉田信啓)
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田1-13-13 (担当者・大壽賀翔)
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷7-2-8 (担当者・春山晃宏)
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2015年1月1日発行・第217号

発行 歴史書懇話会

〒113-0033 文京区本郷7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)

取扱店